

この度の地震・豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

今回の市保連ニュースは、7 月に開催した今年度の「総会＆保護者交流会」と、8 月の「保育団体合同研究集会」に参加しての感想、5 月に行われた「三者懇談会」についてお知らせします。

～京都市保連 総会・講演会＆懇親会を開催しました～

7 月 12 日（日）京都市保育園保護者会連合協議会（市保連）の総会・講演会・懇親会を開催しました。

総会では、これまでの活動報告や今後の活動について皆さまと共有し、子どもたちを取り巻く環境や、保護者会としてできることについて改めて考える時間となりました。

講演会では、弁護士の藤井豊さんをお迎えし、「保護者として知っておきたい『子どもの権利と保育制度』」をテーマにお話しいただきました。子どもの権利について、私たち保護者が知っておくことの大切さ、そして子どもの声や思いを大切にしながら、周りの大人がどう関わっていくのか。とても貴重なお話を伺うことができました。

そして、総会・講演会の後は、皆さんお楽しみの軽食を囲みながらの懇親会。子どもたちは綿菓子作りを楽しみ、初めて会った子ども同士もすぐに仲良くなり、大はしゃぎ！子どもの笑い声を聞きながら、他園の保護者同士で交流したり、情報交換をしたり、笑顔いっぱいの時間となりました。

子育ては一人で頑張るのではなく、保護者同士、保育園、地域がつながりながら、みんなで子どもたちを見守っていくことの大切さを改めて感じました。準備から当日の運営まで、ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。そして、ご参加くださった皆さまにも心より感謝申し上げます。

これからも、子どもたちの笑顔と健やかな成長のために、保護者の声を大切にしながら、皆さんと一緒に活動していきたいと思えます。今年度も年間を通して、交流会を企画しておりますので、また是非お気軽にご参加いただき繋がってもらえると嬉しいです。ありがとうございました。

市保連事務局長 池田智子



市保連総会



学習会

第58回 保育団体合同研究集会に参加して
～現地で学んだこと～

たかつかさ保育園保護者
市保連事務局長 池田智子

今年度、兵庫県で開催された保育合研究に、初めて現地参加させていただきました。市保連の事務局員として、2つの講座の運営を担当し、多くの学びを得る貴重な機会となりました。

一つ目の講座は、清水宣明先生による「保育施設の実状に合った災害対策で子どもの命を守る」です。保育園は、日頃から安全な環境づくりに努めており、地域における安全性の高い避難先としての役割も担っていることを改めて学びました。また、コロナ禍を振り返り、保育園が止まることは社会全体が止まることにもつながると実感しました。

災害時にホッカイロ使ってミルクを温める工夫や、子どもの体を冷やさない・濡らさないなど、体温を守るための具体的な備えについても教えていただき、日頃からの準備の大切さを感じました。

二つ目の講座は、長瀬美子先生による「乳幼児期に大切にしたい育ちって？」です。子どもが困難に直面したとき、自分で乗り越える経験を大切にする。そして、乳幼児期に五感を使い、目の前の人や物と関わりながら、豊かな経験を積み重ねていくことの大切さを学びました。

特に心に残ったのは、子どもとのやりとりは、単なる情報の伝達ではなく、思いを通わせることだというお話です。子どもは、正しい答えを教えてもらうことだけではなく、自分の気持ちを受け止めてもらい、一緒に考えてもらう時間を求めています。すぐに答えを出すことよりも、答えを探す過程を一緒に楽しみ、気持ちに寄り添うことを大切にしたいと感じました。

これまでオンラインでの参加しか経験がありませんでしたが、今回初めて現地で参加し、会場の空気や参加者の皆さんとの交流を通して、画面越しでは得られないものを感じました。

子どもたちの育ちは、保育士だけでも、保護者だけでも支えきれものではありません。保育士、保護者、地域の皆さんがつながり、社会全体で子どもたちを育てていくことの大切さを、改めて実感しました。

今回の貴重な経験と多くの学びを、これからの活動に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。



講座の様子



会場は満席でした

今年度、保育園の保護者会役員を務めることになり、それをきっかけに市保連の集まりにも初めて参加させていただきました。

藤井先生の講演では、子どもの権利や保育の現状について学ぶことができ、子ども一人ひとりを尊重し、大人の都合ではなく子どもにとって何が一番よいかを考えながら、子ども主体の保育を实践することの大切さと、その難しさについても改めて知る機会となりました。また、お話を伺う中で、保育園の先生方が日頃から大切にされていることと重なることが多く、子どもがそのような環境で過ごせていることを、改めて嬉しく思いました。今回の講演を通して、家庭でも日々の中で見過ごしがちな子どもの権利や思いを大切にしながら、成長を見守っていきたいと思います。

初参加ではありますが、市保連の事務局にも入れていただき、貴重な機会をありがとうございました。保育園の保護者会会長がこれまで大切にされてきた市保連とのつながりを、できる限り今後もつないでいきたいという思いから、会長さんが卒園を迎える前に一緒に参加させていただくことになりました。これからどうぞよろしくお願いいたします。



おにぎり・からあげ・みたらしだんごで懇親会



綿菓子製造機の行列



unicef の HP より。家族でも、子どもの権利の内容を共有したいですね

三者懇談会の報告と感想

市保連会長 朱い実保育園保護者 小山

2026年5月25日、京都市子育て支援総合センターこども未来館で行われたました三者懇談会の報告をいたします。三者懇談会は京都市保育園保護者会連絡協議会（市保連）、京都市保育園連盟（連盟）、京都市保育士会の三者で毎年行っている懇談会（意見交換の場）です。本年度につきましては、三者の立場から自由な意見交換を行いました。三者とも保育士の人材確保難は共通認識となっており、京都市に保育士人材や管理栄養士人材を輩出している京都ノートルダム女子学院、京都華頂大学の学生募集停止のインパクトは大きく、人材確保難に拍車がかかるのではないかと懸念を共有しました。

市保連としても要望しております保育士さんなどの待遇改善については、認識が分かれたましたが、全国フルタイム労働者に比べ、保育を担う人材の待遇は十分とは言えず、さらなる待遇改善が必要であると感じました。また、市保連からは京都市における子育て世代の分布状況と保育園の立地状況について説明し、京都市南部においては比較的小規模な保育園が多く立地し、保育の質の格差が生じている可能性があることを指摘しています。このほか、京都市における子育て現役世代の子育て環境などについて広く意見交換を行いました。

短い時間ではありましたが、三者それぞれの目線から京都市の保育をめぐる情勢について意見交換できたことは大変有意義であり、この成果を市保連活動に活かしていきたいと考えております。

編集後記

熊本地震への募金のお知らせが保育園に掲示してあります。そこには、被災した保育園の状況についても書かれていました。距離は離れていますが、保育園同士の交流があり、困った時には話を聞き合い、助け合う、そんな保育園の姿に胸を打たれました。

日常とは違う生活になった時、より、「社会的弱者」となってしまいがちな子どもたち。そうならないように、私ができることは何か。自分自身の権利とは、子どもの権利とは、知っておくだけで、それが力になることがあるかもしれません。そんな思いを込めて、総会の学習会での資料、「子どもの権利条約」のunisef HP版を入れました。家のどこかに貼ろうかな。

たかつかさ保育園保護者 橋本

★市保連メーリングリスト／LINE オープンチャットご登録のお願い★

京都市保育園保護者会連合協議会（市保連）では保護者・保護者会相互の交流や情報交換のため、メーリングリストとLINE オープンチャットを設けています。参加資格は各保護者会の会長、副会長、または市保連を担当する役員の方々です。ぜひご参加ください。参加を希望される方は、市保連事務局（info@shihoren.net）までメールにてご連絡いただければ、参加方法をご案内します。



『市保連ニュース』のバックナンバーは、市保連ホームページで公開中です！